

課題

【中・国語】表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるよう意図をもち、工夫して書くことが苦手

手立て

- 用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上でどのように働いているかを確認しながら目的に沿って、効果的な語句や表現を選ぶ。
- 自分が読み手に伝えたいことを明確にし、その意図に応じた表現の工夫ができているかを他者と確かめ合ったり、振り返ったりする。

単元例 『身近なもののショートショート』 アンソロジーを作ろう

具体例

POINT① 【見いだす】単元のゴールへの見通しをもつ

- ◎ ショートショートを書くために、複数のショートショートを読み、ショートショートの特徴を捉えるとともに、工夫された表現について意見交流をする活動を行う。

情景描写で用いた色彩が、登場人物の心情を効果的に暗示しているね。

次はどうなるだろうと思わせるように情報量を意図的に少なくしている。



POINT② 【自分で取り組む/広げ深める】構想を練り、物語を書く

- ◎ 構想メモを用いて、「登場人物〔身近なもの〕の設定」「物語の展開」「伝えたいこと」「取り入れたい表現の工夫とその意図」を考える。
- グループで構想メモを共有し、特に「取り入れたい表現の工夫とその意図」について意見交換をする。



冒頭と結末の文章を対応させる方法は読者を「はっ」とさせる工夫だね。参考にさせてもらうね。

- ◎ グループでの共有活動をふまえて構想メモを見直し、考えを固めた上で物語の下書きを書く。

- 自身の意図を基に、表現を工夫できているかを確認しながら書く。



POINT③ 【まとめあげる】各自の表現の工夫について振り返る

- ◎ 構想メモと完成した物語を読み、作者の意図が効果的に表現されているかを中心に感想を共有し合う。
- 学級でアンソロジーを作成し、他学級と交換して読み合うことで多様な表現に気付く。

倒置法によって強調したい部分が効果的に伝わってきたよ。



「表現についての振り返り」

次の出番を待つ「僕」の心情が「あの日」に感じた喜びとつながっているということを強調するために倒置法を用いた。

〇〇さんから、「倒置法を用いることで強調したい部分が効果的に伝わってきた」との感想をもらったため、意図が伝わる表現ができた実感した。